

福祉と支え合い

長崎県立豊玉高等学校

一年 黒岩 大夢

私にとって福祉は、決して特別なものではなく、日常生活の中で自然に存在しているものである。

私は持病のため、三か月に一度、病院に通っています。検査や診察は少し緊張しますが、体調によってはおつらく感じることもあります。が、そこで必ず感じるのは、多くの方々によ

って支えられて生活できているということですよ。

病院にはさまざまな年齢や事情を持つ人が通っています。受付で対応してくださる方、ていねいに説明してくださる医師、薬を出してくださる薬剤師。その一人一人の働きが患者を安心させてくれているのだと思います。

福祉は目に見えにくい部分もありますが、このような場面に立ち会ったとき、制度や仕組みだけではなく、人の助け合いや思いやりによっ

ても支えられているのだと実感します。

私は病院に通う中で、「支え合い」という言葉の意味を深く考えるようになりました。家族が病院に付き添ってくれること、学校が理解を示して配慮してくれること。こうした日常の小さな助けは、当たり前ではなく、大切な支えです。福祉は大きな制度や法律に限らず、このような身近な助け合いの積み重ねから成り立っているのだと思います。

さらに考えると、福祉は特定の人のためのものではなく、誰にとっても必要なものです。今は健康で支えを必要としない人でも、将来病気やケガ、あるいは高齢による不自由を経験するかもしれません。その時に安心して生活できる社会をつくるためには、私たち一人一人が福祉を自分のこととして考え、支え合う姿勢を持つことが大切だと思います。

私たちが生きる社会は、決して一人だけでは成り立ちません。誰かに助けられ、また誰かを助けられることで、初めて安心して暮らすこ

とができます。

病院に通う中で得た気づきは、福祉は遠い存在ではなく、私たちの身近にある「安心の仕組み」だということです。これから私は、周囲の支えに感謝しながら、自分自身も誰かを支える一人として生きていきたいと思います。そして、福祉をより多くの人が自分のこととして考える社会になれば、誰もが安心して暮らせる未来につながると思います。